

主題	たのしく、おいしい食事の提供への調理の工夫		
副題	どの食事形態の方にもおいしい食事の提供。		
食事提供の改善			
研究期間	12ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 青陽園
発表者：桐山 陽義（きりやま たかしげ）		アドバイザー：有田 和子（ありた かずこ）	
共同研究者：星野 明弘（ほしの あきひろ）			
電 話	042-654-4025	メール	
FAX	042-654-4086	URL	

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人東京玉葉会が主体となっている特別養護老人ホームです。 昭和41年に開設し、東京都で8番目、八王子市内では最初にできた施設です。 長期入所140床、ショートステイ20床、計160床の施設になります。 当施設での食事の形態は五つに分けており、常食、粗刻み食、刻み食、ミキサー食、ゼリー食となっております。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

- 料理によって残菜が多かった。
とんかつなどの揚げものやサラダ・和え物が特に多かった。
とんかつなどの揚げものは衣が固く食べにくいようだった。
- サラダ・和えものは時間が経過するにつれ味が薄くなった。
- 刻み食はむせ込むことが多かった。
- 服薬する時、御飯に混ぜて服薬介助を行っていた。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

- 比較的好まれる料理であるとんかつやフライを食べやすいように料理したい。
- サラダや和え物などは利用者様の元に届くまで味が変わらないようにしたい、その結果残菜の量を少しでも減少させたい。
- 薬と一緒に御飯は美味しくないため、別のものでも服薬介助を行い、食事を美味しく召

し上がっていただきたい。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- 揚げものに対しての衣の工夫、硬い衣を軟らかくする。
揚げ上がったものを、再調理し食べやすくする。
- サラダ・和えものはドレッシング等にとろみ剤を使用し味の継続を計り、食べやすくする。
- 水分の多い料理は刻み食に対してとろみ剤を使用し水分をまとめ食べやすくする。
- 服薬介助を行う際、水で飲めない方のために水に代わるものを検討し当施設で作ったゼリーを用いて薬の嚥下をしやすくする、このゼリーは普段水分補給の際水分の嚥下困難な利用者様に対し提供しているポカリゼリーで代用。

《4. 取り組みの結果と考察》

- ① 衣の工夫に対して、鶏肉のから揚げは小麦粉だけでは揚げた直後は軟らかいのだが、時間がたつと肉がパサつき硬くなって食べにくくなってしまっていた。

そのため衣に使用する粉を天ぷら粉に変更を検討し、上がった後も軟らかさを保ちたいために卵で粉を溶き使用することにした。

結果以前よりも軟かさを保ったままのから揚げの提供ができた。

トンカツや魚のフライなどパン粉の衣が付いている揚げものに対し、一度油で揚げたものをスチームコンベクションを使用し短時間蒸すことにした。

その結果、衣は軟らかくなり、利用者様も残らず召し上がってもらえることができた。

- ② サラダや和え物は調理の過程で、水分が出てきてしまい、味も安定しにくい為か食事の風景を見学すると、サラダを箸などで採りにくそうにされていたり残されている方が多く、和えものでむせ込まれてしまう方もいました。

そこでドレッシングなどにとろみ剤を使用しサラダや和え物にまとまりを持たせることにした。

その結果、箸などでつまみやすくなり、味も食材とからみ、食材と水分がまとまり咽こまれることが少なくなった。

- ③ 刻み食の方は、その食事の形態からむせ込まれてしまう方がおかった。

そこで、水分の多い煮物などの料理に対しとろみ剤を使用し水分をまとめた結果、残菜量を減少される事が出来た。

- ④ 服薬をする際、ご自分では難しい方に対して特に取り決めはなく、御飯やおかず

と一緒に介助してしまうことが多かった。

それでは、御飯の味を変えてしまったり、せっかくの楽しみにしている食事がまずく感じられてしまうと思い、水分補給時に使用するゼリーを、服薬介助を行うため、専用に用意することにしました。

水分補給用とは別に用意したのは味が残ってしまったり、普段はゼリーを召し上がらない方にも使用できるように考えました。

利用者様全体の満足度が上がったかまでは、結果として出ていませんが、介護職員からは服薬介助がしやすくなったと言ってもらえている。

《5. まとめ、結論》

利用者様に食事を提供する業務に携わっているものであることを改めて理解し、常に美味しい、楽しい食事の提供方法を模索し料理の食べ残し、残菜量を減少させていきたいと思う、今回の研究で改善できることができ、これからもより良い食事提供ができるように、努力をしていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

【メモ欄】